

## 第 1 回会議でいただいた御意見と対応方針について

### 1 第 1 回会議でいただいた御意見まとめ

- (1) 消費者ニーズを的確に捉えた付加価値の開発、将来に基点を置いた戦略的取組
  - ・商品づくりにはいかに食べやすいものを作るかという意識や具体的ターゲットを想定することが大切である。
  - ・中食や機能性など変化するニーズに沿う付加価値を付けていく必要がある。
  - ・2, 30年後にどうあるべきかバックキャスト的思考でやるべきことを明確化して進める必要がある。
- (2) 農林漁業者を含めた食関連産業や文化的な分野も含めた多様な「知」との連携
  - ・京都ならではのフードテックには技術的分野だけでなく人文的知見とも連携して進めるのがよい。
  - ・産学公「民（生産者など）」という連携をつくるのがよい。
  - ・様々な農業者の実態や声が活かされる研究がされるほうがよい。
- (3) 世界を視野に入れた取組
  - 【世界企業との連携による付加価値の創出】
    - ・食料問題など海外に目を向け、世界の中の京都を意識した研究をしてほしい。
    - ・海外を含めたグローバルなプラットフォームの仕組みが重要である。
  - 【付加価値の発信】
    - ・京都のブランド力を海外に発信していくべき。
    - ・国内の市場は縮小傾向であり、海外を含めてマーケットを広げることが重要である。
- (4) 健康分野や環境負荷低減といった社会的課題への対応
  - ・ヘルスフードテックやプラントベースドプロテインがフードテックのキーワードとなっている。
  - ・健康機能性や SDG s などに対し、これまでの成果を踏まえたシーズ開発につなげていくのがよい。
- (5) 構想の具体化段階に関する御意見
  - ・シーズとニーズをつなぎ商品開発等を伴走支援するコーディネーターの配置が重要。
  - ・府大等と連携しながら京都の農産物がどのような機能性を発揮するのかエビデンスを明らかにする取組を今後の課題としてやってほしい。
  - ・機能性成分と土壌との関係についての研究を行ってほしい。

### 2 対応方針

いただいた御意見を次の【5つの視点】に落とし込み、構想の具体化段階における基本的考え方に位置づけることとします。

また、コーディネーターの配置など構想の具体化段階に関する御意見については、構想を実現するための方策などとして本文中に記載するほか、構想の具体化段階で検討していくこととします。

#### 【5つの視点】

- (1) ニーズファーストの徹底
  - 日々変化する消費者ニーズを捉えるとともに、将来のニーズを予測したバックキャスト思考による取組を進めます。
- (2) 最先端技術と食文化を融合する多様な主体によるオープンイノベーション
  - 食に関する最先端技術や世界に誇る京都の食文化を融合する、農林漁業者から加工、流通、販売までの様々な事業者によるイノベーションを促進します。
- (3) 世界トップレベルの技術を有する大学や企業等との連携
  - けいはんな学研都市をはじめ、国内外の最先端技術を有する大学や企業等とのネットワークを構築します。
- (4) 持続可能性に配慮した事業の構築
  - 気候変動への対応や環境負荷を低減した技術開発、健康機能性やオーガニックなどの新たな価値を付加した商品化を進めます。
- (5) 京都のブランド力の世界への発信
  - 「京都」のブランド力を活かし、海外輸出を拡大します。